

告 辞

新緑が萌えるうらかな春暖の季節に、保護者、同窓会並びにご来賓の皆様のご臨席のもと、平成二八（二〇一六）年度琉球大学入学式及び大学院入学式を挙行できますことは、大きな喜びとするところでございます。

新入生諸君！ご入学おめでとうございます。琉球大学の全ての在学生並びに教職員を代表して、諸君の入学を心から歓迎いたします。また、これまでお子様を温かく見守り支援してこられた、ご家族・保護者の皆様に心よりお祝い申し上げます。

ただ今、学部長及び研究科長の申請に基づき、琉球大学にめでたく入学を許可されたのは、学部生一六二九名、大学院生三〇一名、総計一九三〇名の新入生諸君です。限りない可能性を秘めた一九三〇名の希望に満ちた諸君を、琉球大学のキャンパスでお迎えできることを嬉しく思います。

新入生の諸君、琉球大学を選んでくれてありがとう、というお礼の言葉を申し上げます。諸君が入学した国立大学法人琉球大学は、他の国立大学とはその設立の経緯が異なっております。本学は、一九五〇年に設立され、ミシガン・ミッションと呼ばれたミシガン州立大学教授団の指導によって、大学運営の基礎が築かれました。一九六六年から琉球政府立大学となり、一九七二年の沖縄の日本復帰によって国立大学となりました。さらに、二〇〇四年に法人化されて国立大学法人琉球大学となり、今日に至っております。このように、本学の歩んできた道のりは、他には見られない独自性を有しておりますが、その特徴は、「国際性をもった地域のための大学」ということでした。

琉球大学の建学の精神は、「自由平等、寛容平和」です。選択の自由と機会の平等、多様性・異質性を認める寛容の精神、そして平和を求める心が重要であることを、本学の建学の精神は含意しています。この建学の精神を継承・発展させ、「真理の探究」、「地域・国際社会への貢献」及び「平和・共生の追求」の三本柱を基本理念として定めています。

琉球大学に入学したからには、諸君はこの大学でしか学べない、あるいは経験できないことを主体的にチャレンジし学んで下さい。先程述べた設立経緯もさることながら、琉球大学が他の国立大学と決定的に違うのは、その立地環境です。琉球大学は、百六十の有人・無人の島々から構成される国内唯一の島嶼県・沖縄に立地する国立大学です。島嶼地域は、本土と離れている環境にあること

から、固有の生態系を有するとともに、独自の歴史・文化を形成してきました。このような琉球大学の置かれた地域特性を活かした、地域志向型科目としての琉大特色科目などをカリキュラムとして用意しております。

諸君が入学するこの二〇一六年度は、日本の国立大学にとって二〇二一年度までの第三期中期目標期間に入る節目の年です。琉球大学は、第三期の中期目標・中期計画を策定するに当たって、目指すべき長期ビジョンとして、「アジア・太平洋地域の卓越した教育研究拠点大学」と「地域とともに豊かな未来社会をデザインする大学」を目指すことを決めました。そして、草創期からの理念を生かし、沖縄はもとより日本、世界に貢献できる教育研究拠点を形成することを大学の使命（ミッション）として定め、創造的な発想力と地域や地球規模での新たな課題に対して、果敢に挑戦する力をもったグローバル人材を育成することを目指しています。その育成の対象は、本日入学する諸君に他なりません。

さて、大学で何を学ぶのか、ということになりますが、私の考えでは「学び方を学ぶ」ということになります。大学では、主体的に学ぶということが大事です。また、私たちは生涯にわたって学び続ける必要があります。これからの時代は、グローバル化が進み、テクノロジーがさらに進歩し、人工知能を搭載したロボット化がさまざまな分野で進展します。これらによって、現在ある職業の中味も変わり、人間の果たす役割が明確に限定されてくると予測されています。これからは、感性豊かで総合的な判断力や思考力、創造力などを身につけた人材が要求される時代になります。

したがって、大学は、このような時代の変化に対応できる人材を育成し、学生が将来どんな職業に就いても、活躍できる「学び方」を身につけさせ、社会に送り出していかななくてはなりません。二十一世紀の学びは、主体的な学び、すなわちアクティブラーニングであり、琉球大学でもそのような学修環境を用意して、諸君を待っています。

具体的には、教室におけるディスカッションや学外でのフィールドスタディ、インターンシップ、留学などを通して、知識や思考だけでなく、人間的にも成長できるプログラムを用意しています。とりわけ、学生時代に海外へ留学することをお勧めします。本学では、附属図書館を改修して、アクティブラーニングができるラーニング・コモンズやグローバル・コモンズという学習空間を設けることにしていますので、大いに活用してもらいたいと希望いたします。

アクティブラーニングを身につけることによって、県内、国内、そして世界に

において、解決が急がれている諸課題についても自ら考えることができます。沖縄における米軍基地問題や子どもの貧困問題、全国的問題である東日本大震災からの復興問題、原発稼働問題、TPPに起因する諸問題、経済社会的格差問題、国際的にはテロや難民問題、環境問題など、解決すべき課題や懸念材料に対して、諸君はどのように対処していけばよいのでしょうか。そして、十八歳投票権をどのように行使すればよいのでしょうか。

諸君には、何ごとにも主体的に関わり、自ら疑問とするところを徹底的に追究し、納得いく自分なりの解答を見つけ出すことができます。主体的に学び努力する。それによって、自分の可能性が高まっていくのを実感することができるでしょう。主体的な学びとして意欲的に模索の旅を続けることによって、諸君は人間力を備えたグローバル人材として成長し、社会から期待される有為な人材となれるはずです。社会はそのような諸君に大きな期待を寄せています。

修士課程、専門職課程および博士課程に入学する大学院生にあつては、学術研究を究める過程で、研究者としてあるいは高度専門職業人としての、深い学識及び卓越した能力を十二分に培っていただきたいと希望します。本学の恵まれた研究環境と研究指導体制のもとで、諸君の豊かな発想と着眼点によって、ユニークな研究課題に果敢に取り組んでもらうと同時に、研究者倫理や職業倫理についても修得し、高邁な人格を磨き、日本そして世界の未来を切り拓く研究者あるいはグローバルリーダーとして成長されることを切に願い、諸君の意欲的な研鑽を期待いたします。

日本銀行券の五千円札の肖像にもなったことのある新渡戸稲造は、「学問は常識以外の智識にして、学問の蘊奥を極むれば、それだけ常識以外の常識を発達せしむ」と述べています。これは、学問を究めることによって、常識に挑戦でき、固定観念を打破できるということを述べていると解釈できます。常識への挑戦は、アクティブラーニングを通して、いろいろな視座から俯瞰的にものごとをみることによって可能となります。失敗を恐れず、自分の可能性を信じて、真理を模索する旅へチャレンジしてください。

本日は誠におめでとうございます。

二〇一六年四月五日
国立大学法人琉球大学
第十六代学長 大城 肇